GRIPS 開発フォーラム勉強会　PFM シリーズ第二回
「『国づくり』に対する PFM 支援の戦略的な配置　～PFM 支援はどのように援助業務に取り入れることができるのか～」

2005 年 7 月 27 日
GRIPS 開発フォーラム
平尾

GRIPS 開発フォーラム勉強会　PFM シリーズ第二回

1. 前回勉強会アンケート結果
「勉強会シリーズで、今後取り上げてほしいテーマ」 ― 別添 1

2. 今次勉強会問題提起(仮説の提示)
「機能的価値(Function Value)と解決的価値(Solution Value)」
→ 顧客である途上国が求めているのは、Function ではなく Solution
→ Function をつなぎ合わせて Solution に導く PFM

「『選択と集中』のあり方」　― 別添 2
→ 水平拡大ではなく垂直拡大の援助
→ 垂直拡大の軸となりうる PFM

以 上

別添 1

第一回勉強会　アンケート結果
～勉強会シリーズへの要望とその対応～

「GRIPS 開発フォーラム PFM 勉強会シリーズで、今後取り上げてほしいテーマ、また話を聴きたい講演者、運営面でのアドバイス等があればお教え下さい。」

コメント 今回のような実務的なテーマを取り上げていただけると良いと思います。また、PFM をすでに導入し、その具体的な効果（良い効果、悪い効果双方）が現れている事例を紹介していただけると参考になります。

GRIPS 担当者回答
企画書にあるとおり、今後も援助実務家の方を主要聴講者と想定した勉強会を企画していきたいと考えております。
PFM 改革の効果を総合的に判断するには改革始動からある程度の時間が必要だと考えています。PRSP 策定国におけるそのような事例は、少数ではあるもののいくつか存在しております。現在 GRIPS ではそのような事例に携わったことのある人材を講師として勉強会に参画していただくよう検討中です。

コメント PFM という広い支援分野を各ドナーが自己の比較優位などから部分に切り取って支援しており、パッチワーク的になっているとのお話があった。他ドナーが「財政支援」を行う中で、平行してどのような TA を行っているのかについても関心があります。

GRIPS 担当者回答
PFM 支援を活発に行っている DfID、世銀等の途上国支援戦略の中で PFM 支援がどのように位置づけられているのか、という点については、第二回勉強会(7 月 27 日(水))で尾崎隆夫氏に触れていただくこととしております。是非ご参加下さい。PFM を新たに勃発してきた 1 支援セクターとして捉えて囲い込みするのではなく、財政支援、技術支援、プロジェクト支援等と有機的に連関させて、途上国の開発プロセスを「自立回転」させるように戦略的に援助を投入していくことが重要だと考えております。

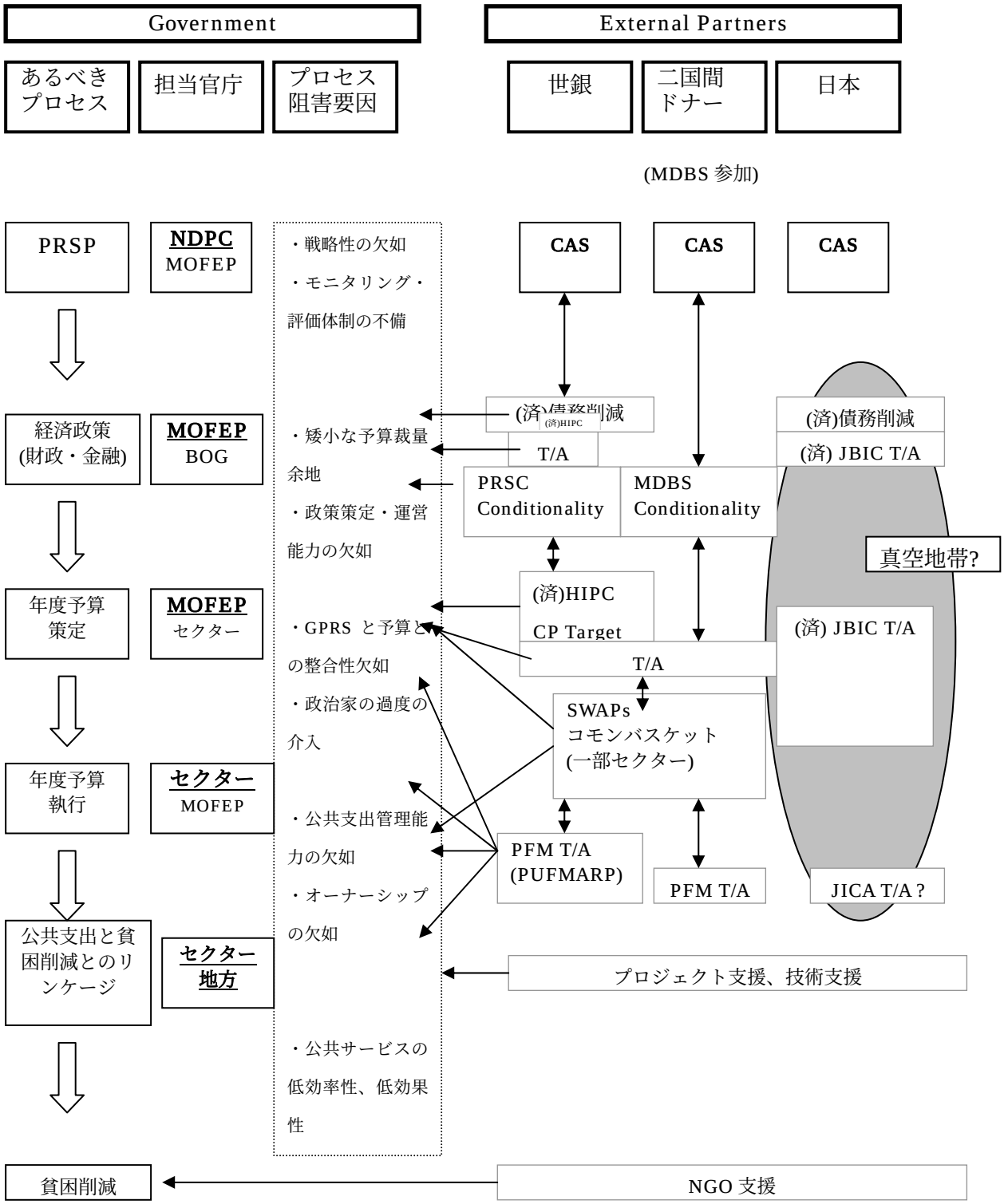
コメント
本来のプログラム上はおそらく「質疑応答・議論」の時間を設けていただいたかと思いますが、結果的に削られてしまい残念な面もありました。発表者の方はもちろんですが、参加者の中にも多くリソースパーソンを含んでいるかと思いますので、議論への時間配分をしていただければ幸いです。PFM の理解を深めるとともに、今後の案件形成に向けての課題を整理できるといいと思います。

GRIPS 担当者回答
タイムマネージメントの拙速さは反省しております。「参加型勉強会」というコンセプトは堅持しておりますので、次回以降の勉強会では参加者の議論時間も確保できるよう時間配分により配慮したいと考えております。それでも時間内で拾いきれない質問、コメント等が出てくる場合はこのアンケートを通じて対応していきたいと考えております。また、本勉強会シリーズでは、2 時間の講演における「知識の吸収」以上に、講演を軸とした定常的なネットワーク構築も重要な目標として掲げております。そのネットワークを活用しての日常からの知見共有効果も期待するところです。

コメント
国内の自治体など公的機関に対して監査法人がどのようなコンサルティングを実施しているか紹介があると参考になると思います。

GRIPS 担当者回答
英国はサッチャー政権時代の行財政改革で培った経験と人材を、途上国での PFM 支援に活かしていると考えられます。現在日本でも活発に行われている行財政改革の実態に焦点を当てて、その日本国内の経験と人材が日本の援助実務にどのように活かせるのか、といった視点からの勉強会も行えないかと現在計画中です。

以 上

別添 2

GPRS が貧困削減サービスにつながるまでの課題とドナーの対応(ガーナ)